

子守 (大和い手向五字)

〽️オヤツかな何としよえ

アイタタタ膝頭を擦りむいた

憎い鳶づら油揚げさるうた

オオオ

泣くな良い子じゃこんな物やるな

お月様いくつ十三七つ

まだ年やいかぬ山出しが

〽️わたしやどうでもこうでも

あの人ばかりはあきらめられぬ

じゃによつて讃岐の金比羅さんへ

願でも掛けましょうか仇口の

〽️花さえ味かぬ生娘の

枝姿振りもぶつきらぼう

〽️鼻緒切らして片々提げて

がつくりそっくりみどり子下してこれからは

〽️並べたてたる人形店

サアサ安売りじゃ

何でもかでも選り取りじゃ

〽️緑はかむる紅は

花の姿の姉様を

〽️口説文句は浄瑠璃で

聞き覚えたをそのままに

〽️ほんに思えばあとの月

宵庚申の日待ちの夜

甚句踊りや小唄節

数ある中にこなさんの

〽️お江戸でいわば勇み肌

好いた風じゃと背戸家から

見かじり申してなま中に

〽️気もあり松の藍絞り

色に鳴海と打ち明けて

晚げ忍んで来めさるならば

コレナ嬉しかるではないかいな

なぞと浮かれて座頭の坊

〽️冴えた月夜にやみ市ではないかいな

やみ市なりやこそ真つ黒な

炭屋のお客と行くわいな

座敷で何をひかんすえ

盆の踊りになまめかし

〽️お前越後か私も越後

お国訛が出てならぬ

〽️新潟出る時や涙で出たが

〽️今は新潟の夢も見ぬ

〽️才オイ船頭さん

寄てかんせの

戻りに鯨でも積んでこんせの

〽️踊りおどらば品よく踊れ

品の良いのを嫁にとろ

〽️松前殿様持ち物は

いか たこ なまこに珍の魚

〽️寄らしゃんせエナ面白や

〽️またも鳶めとろるとは

太い奴と豆腐屋へ

子を引きかたげて急ぎ行く